事例No.	2722
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	特定非営利活動法人芸術と遊び創造協会

事例区分	地域活性化

タグ	・公共施設活用 ・教育・子育て ・関係人口

事例種類	地域活性化

事例内容・タイトル

特定非営利活動法人芸術と遊び創造協会

出典

令和２年度ふるさとづくり大賞事例集

団体表彰

特定非営利活動法人芸術と遊び創造協会　東京都新宿区

地場産品発掘・ﾌﾞﾗﾝﾄﾞ化　定住促進　観光振興・交流　まちなか再生
環境保全　産業振興　コミュニティ

概　要

平成20年4月、新宿区で廃校になった旧四谷第四小学校に、跡地活用の一環として、地域の推薦を受けて東京おもちゃ美術館がオープンした。本美術館は、多世代交流、木育推進などを旗印に、市民の力を最大限に生かす「市民立」の美術館として設立。その後、木育事業を全国の自治体と連携して実施、地域材を活用した木製玩具の配付事業（ウッドスタート事業）を展開している。また「東京おもちゃ美術館モデル」という、新しい美術館マネジメントの手法を取り入れた「姉妹おもちゃ美術館」が全国各地につくられ、地域活性化、地域の価値の再発見につながっている。



【東京おもちゃ美術館外観】



【赤ちゃん木育ひろば】



【全国姉妹おもちゃ美術館マップ】

評価された点

・NPOとして大規模な活動を区から自立して幅広く行い、地域に貢献している。
・小学校の跡地利用の一環として、おもちゃ美術館をオープンし、各地の自治体と連携しながら木育事業を実施するなど、地域内外との連携をはかりつつ、子どもを中心とした学びや育ちに繋がる場を形成している。
・地元愛を幼い頃から感じられる取り組みを実施している。地域職人、歴史、文化と様々な要素のある施設の活用の新しい形である。
・ミュージアムの新しい在り方、運営方法を確立し、経営モデルとしても全国展開される好事例として評価できる。
・市民の力を活用したミュージアム経営という先進性、平成20年からの安定した経営と全国への広がりという継続性、発展性が評価される。また、地元自治体、市民、地元企業との連携や東京おもちゃ美術館の14万人を超える入場者、ウッドスタート事業の木を取り入れる暮らしのきっかけや木工業・小売業への波及効果など、幅広い分野に大きな効果をもたらしている。
・市民立という新規性もさることながら、木育教育と「姉妹おもちゃ美術館」等、様々なイノベーションがみられ、経済波及効果やＳＤＧｓへの貢献も期待できる。